

	シーズ名	分裂酵母を用いた薬剤(生理活性物質)スクリーニング
	氏名・所属・役職	中村太郎・理学研究科・教授
<p><概要></p> <p>生理活性物質のスクリーニングはこれまで培養細胞等を用いておこなわれているが、高コスト、操作が煩雑などの問題がある。酵母は単細胞の真核生物で基本的な構造は高等生物と同じである。さらに出芽酵母、分裂酵母はモデル生物として基礎研究も盛んに行われており、ゲノム配列もすべて明らかにされている。高等生物にも保存されている遺伝子も多く存在することもわかっている。</p> <p>分裂酵母および出芽酵母の基礎研究によって得られた知見を薬剤のスクリーニング等に応用する。低コストで簡単な操作で行うことが可能となる。またヒト遺伝子等の発現も可能なので、あるタンパク質の機能を阻害する物質のスクリーニングも可能である。</p>		
<p>右図、分裂酵母 (bar 10μm)</p>		
<p><アピールポイント></p> <p>低コストでスクリーニングが可能である。</p>		
<p><利用・用途・応用分野></p> <p>医学、薬学、工学、生命科学</p>		
<p><関連する知的財産権></p> <p>なし</p>		
<p><関連するURL></p> <p>http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/cbiol/pombe/pombe_J.htm</p>		
<p><他分野に求めるニーズ></p>		
キーワード	酵母、有性生殖、減数分裂、リソース、遺伝資源	